

良識ある保守主義・情報公開

# 吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

〒194-0011 町田市  
成瀬が丘 1-14-12  
サンホワイト E103-13  
☎ 042-795-7361 (FAX: 必  
要に応じて186を頭に加える)  
議会 042-724-2171  
yoshidaben@gmail.com



## 一般質問：幼稚園と幼稚園児数と保育園

町田市において幼稚園児が大幅に減少しているが、他方で行政が保育園の補助新設をまだまだ進めている状況であり、保育園児数は増加している。現に、以下の数値内容になる。(町田市保育・幼稚園課-質問答弁資料)

	幼稚園	こども園	認可保育園	合計
2013年	5,328	2,236	5,893	13,457
2023年	2,614	2,760	6,669	12,043
	-2,714	524	776	-1,414

幼稚園数の減少が認定こども園に類型変更したもの除いても、-1,276人という純減になっている。この年代の園児数の減少分-1,414人がほぼ幼稚園児の減少となっており、町田市内の幼稚園は全てが民間運営であることを考えると、少なからぬ幼稚園の経営は苦境に陥っているケースが出てくることは必然である。現状を放置すれば、今後その閉園が次々と起きてくるのではないかと危惧されるものである。それに対して、全て行政は幼稚園の自己責任とみなしているが、既存の施設や体制を閉園・廃止して無駄にするのではなく、幼稚園の教育的機能の役割を重視して活かす視点がこれから欠かせないと主張しました。



保育園の運動会に出席した時の写真を使用しました。

## 質疑：子ども条例と子どもの意見表明権

掲載写真はインターン研修中に撮影したもの

町田市が新しく制定する「町田市子どもにやさしいまち条例」に関して尋ねました。



インターン研修で学校訪問

1. 「子ども」と漢字とひらがなを混ぜた標記をした理由。国ではひらがなの「こども」と表記していますが、町田市は旧来からの「子ども憲章」にそってこの名称にしたというものでした。「子供」も使わない方針です。
2. 子どもの定義として「18歳未満の者その他これらの者と等しく権利を認めることが適当であるとして市長が認める者」とした理由。主には高校生を含めています。ただし、18歳からの選挙権や民法上の権利などは法的に保障されます。
3. 子どもの意見表明権については、どのように確保していくのか。子どもの権利というと、社会的な活動、あるいは自身の学業に関する権利などがあるが、公的施設などを除いて制限は設けられないようです。
4. 本条例の遵守に関して、罰則を設定することは考えているか。

条例には罰則が設けられておらず(目標条例)、この条例を守らない、あるいは守れない大人や組織、機関が出てても有効に機能できるかは不明でした。

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎町田市内企業が開発した「水耕栽培メロンの世界一決定戦」を開催しよう!

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしました

若い世代の育成に全力をささげる  
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

# 吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは  
左記を読込  
して送信



好評インターンシップは、  
第53期生を受け入れ準備中

## 一般質問：障害者給付と介護保険適用

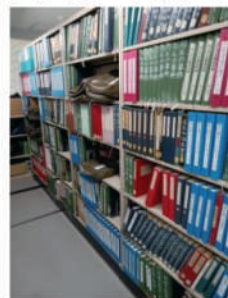
かなり長いタイトルですが、「障害者給付と介護保険適用の留意事項に係る令和5年10月30日付けの厚労省の事務連絡内容について」を一般質問で尋ねました。

これは、障害を持っていて障害者給付を受けている人が65歳になった時、介護保険適用年齢となったことで、障害者としての支援が必要なのに、それが受けられなくなるケースが起きていないかと言う問題です。もとより、そうした懸念があるから質問で取り上げたものです。質問の内容は、「国は各地方自治体に対してどのような対応を求めているか、町田市はその事務連絡をどのように受け止めているか」と問い、役所内で複数機関にかかわる事項と思われるが、「老健局とも協議済みである」という用語を、町田市はどのように解釈するものかとも、さらに尋ねました。

国の方針は、視力障害などを持っていて、65歳以上になった場合に手足などに軽度の障害を生じた際、介護1レベルの対象に認定されてしまうと、障害者が日常生活に支障が出るような取り扱いを受けることにならないように、本人の意向を十分に確認するというものです。それを町田市の高齢者サービスセンターやケアマネジャーに徹底されているかを確認し、その対象者の生活活動の低下を招かないことを求め、その趣旨が徹底される答弁を得た次第です。



凹凸の点がある点字本



日本視覚障害者職能開発センターを訪問

## 委員会質疑：白内障治療多焦点眼内レンズ

### 町田市民病院が新たに導入する白内障治療手術

町田市民病院の条例改正案では、白内障手術で、現行の単焦点眼内レンズに加え、多焦点眼内レンズも装着する手術が加わる内容でした。健康福祉常任委員会で全員賛成となりました。

白内障というのは、眼の水晶体に濁りが出て視界が曇って見えるものです。本来の人の眼はオートフォーカス（自動焦点）機能が備わっていますが、白内障手術ではその水晶体を取り除き、単焦点眼内レンズに入れ替える手術です。なお、私は白内障手術をすでに行っています。（写真：町田市民病院で白内障手術時に撮影）



その単焦点眼内レンズを多焦点眼内レンズに切り替える場合に関して、質疑をしました。手術の技術としての問題はなさそうですが、車の夜間のライトなど外部からの光のまぶしさがより増すなど適用の具合は個人的差異が起きる可能性はあるとのことでした。また、手術代と単焦点眼内レンズ相当額分は保険診療の対象になるが、多焦点眼内レンズの差額分を払うことになり、その装着希望者は相応の費用（約30万円ほど）が余分にかかるとのことでした。2024年4月1日から手術開始予定とされていますが、この手術を行う病院は現在限られており、市民病院の医療の質を上げる点からも意味があるというものでした。

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2023年9月末までに105名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。